

UN Women東京 News Letter

Vol.8

UN Women (国連女性機関) 日本国内委員会東京委員会

2013.7.25

UN Women事務局長ミCHEル・バチエレ氏 辞任と ラクシュミ・プリ事務局長代行の来日

3月15日、第57回CSW(国連女性の地位委員会)の閉会挨拶とともにUN WomenミCHEル・バチエレ事務局長は辞任表明されました。

「2週間にわたる歴史的な第57回CSWには加盟国、政府間組織、市民団体などから、これまでにない多くの方々が参加してくださいました。皆様に厚く御礼申し上げます。今回の会議への関心と出席者の多さは、すべての国にとって「女性と女兒に対する暴力の根絶」が重要であることを反映するものでした。

世界的な怒りをまき起こし、正義への要求の高まりを招いた暴力事件の直後に私たちは集まりました。UN Womenは「女性と女兒のためのミレニアム開発目標達成」という来年の優先テーマの準備を全面的に支援しますとともに今年、出てくる緊急の問題についても努力を続け、女性に対する暴力根絶などジェンダー平等問題が2015年以降の開発の枠組みの中で優先的に扱われるように努力したいと思います。」

「個人的な理由で私は祖国へ帰ることになりました。これからも、女性のエンパワーメントとジェンダー平等のために尽くすことをお約束します。この歴史的な瞬間を皆様と分かち合うことができましたことは名誉であり、特権でもありました。女性の地位委員会は女性の人権を推進するためのグローバルな素晴らしい会議の場となるという優れた先見性のもとに設置され

ました。皆様はこの世界をより良い生活ができる場とするために活動するという役目だけでなく責任もあるのです。何百万、何千万もの人々が皆様に期待と信頼を寄せていますので、休むことなく努力を続けて頂きたいと思います。私たちのテーマソングにもありますように、私たちが『一体(One Woman)』となった光り輝く存在でありたいものです」



国際文化会館にて

5月30日、TICAD V(第5回アフリカ開発会議)出席のため来日したUN Women事務局長代行のラクシュミ・プリ氏と国内委員会担当のミツシ・ダス氏の歓迎夕食会がありました。プリ氏から挨拶とともにCSWでは「女性に対する暴力根絶と防止」に関する合意結論に達したこと、フィールドにおいてはUN Womenの5つのテーマの中のジェンダー平等のために75か国、7地域事務所でプログラムの実施活動が推進されているとの報告がありました。女性と女兒の問題は今後とも重要な課題であり、私たちはパートナーシップをもって取り組み、さらに推進していきたいと述べて、集ったメンバーの席を巡りながら親しく懇談して交流のひとつを過ごしました。

第21回チャリティコンサート

ひびきの彩り リコーダーとチェンバロによる ～バロック音楽の愉しみ～



7月13日午後、東京オペラシティ・近江楽堂にて開催のコンサートは若い二人の女性が奏でるリコーダーとチェンバロによる共演でした。小サロンでの演奏は、日常の喧騒と暑さを忘れさせてくれ、高原の涼しい風が吹き抜けるようなさわやかな響きに心打たれたひと時となりました。この日、ご自宅から運んだという繊細で豊かな音律をもつ古楽器のチェンバロ。小鳥のさえずりを思わせる軽やかな音色のリコーダー。深みのあるメロディーとハーモニーが聴衆の琴線を震わせ、呼吸のあった演奏は、心地よく午後の夢の世界へ誘ってくれました。

終演後、会場を後にするのを惜しみながら、口々に「チェンバロ～初めて!」「本当に来てよかった!」「楽しい時間だった!」と友人同士で賑やかにおしゃべりし、それぞれの家路につきました。



楽しかった 「オールソフィアンのつどい」バザー



5月26日(日曜日)恒例の「上智大学オールソフィアンのつどい」バザーにUN Women東京も出店し、新人の私も初参加しました。初夏の日差しの中、音楽と活気に包まれてお店に並べた品々も華やい見え、木の枝につるしたインドのスカートやエプロンは風にそよいで人目を惹いて、吊るした途端に“お買い上げ！・・・”という嬉しいこともありました。陳列台を飾る鮮やかな刺繍のポーチやバッグはバングラデシュの農村女性が一針一針、心を込めて仕上げた“ノクシカタ刺繍”という伝統工芸だと知りました。また、小さな子どもが数字を覚えたり物語したりするめの絵本のように作られた布製バッグはフィリピンの女性の手作りで評判がよく、発注すると2か月位かかると聞いて驚きました。フェルトで作られたミツバチやてんとう虫がページ毎の数字と同じ数だけマジックテープで留められていて、どれも愛らしく縫製が丁寧で、どんな方が作っているのだろうと、想像せずには

はいられなくなりました。お祭りの楽しさとともに遠くの人々へ思いをはせたひと時でもありました。お向かいのブースでは、東北で被災した子どもたちがカンボジアの天然木の積み木を一日がかりで高く積んで大きなアンコールワットを完成させて、歓声をあげながら跳び上がっていました。

(会員:小舘知子)



講演と学習シリーズ 「映画に学ぶ世界の女性たちは・・・いま」

4月25日(木) 第1回
「女盗賊プーラン」を教材に

インドの下層カーストに生まれた伝説的女性の壮絶な一生を映像化した「女盗賊プーラン」を通して彼女が闘ったインド社会と女性問題の諸相を学びました。講師の松本侑壬子先生の解説に大いに助けられ、放映開始直後から画面にひきこまれました。社会の仕組みや男性に対し「こんな女性蔑視は醜い！」という憤慨が沸き起こり、暗い中に暫く身を置きたいほど現実に戻るのが辛かったです。

プーラン・デヴィ女史は心身ともに強い女性だったのだらうなと思います。想像を絶する辱めを受けながら、前を向き、短い一生(あと僅かで38歳の誕生日を迎える2001年7月25日に射殺された)を駆け抜けたのですから。生前、女史は2回来日されたことを知りました。11年間の投獄後、1996年国会議員になり、日本文化に触れる目的で1999年京都精華大学に招かれて講演し「日本は教育水準も高く勤勉・・・」「女性の意見を聞きたい」と言われたそうです。日本滞在は女史に一時の安らぎを与えたのでしょうか。わが国でも今なお女性蔑視に苦勞する女性がいることをご存知だったのでしょうか。過去、わが国にも女史のような辛い目に合わねばならない哀しい女性が多く存在し、歴史を作ってきました。女性の権利が認められ、生活は改善されているとはいえ、残念ながら現在もなお大なり小なり同じ境遇に身を置き、一生を終わる女性も多い筈です。強姦や暴力は決して許されることではありません。教育により、その行為を阻止できるのでしょうか。世界中で絶え間なく繰り返される同じような行為に、ふと生物学的な男女の違い(つまりヒトゲノムが22対の常染色体と女のXXと男のXYの染色体から成り立っている)がある限り無理なのかと考えてしまいます。

これまで映画を単なる娯楽の一つとして観てきましたが、こんなにも考えさせられる映画もあると認識したい。いま、世界の貧しく恵まれない女性たちや、男女平等

をめざす活動の推進に率先して目を向けようと思いました。男性も女性も私たち人類は、地球という惑星にともに生きているのですから。

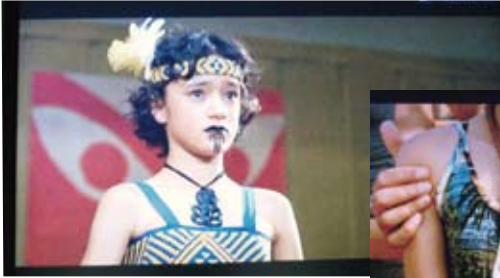
UN Women東京の会員でなかったら、プーランの存在すら知らず、また同じような境遇にある世界の女性たちに関心も示さず、ぬるま湯の中でぬくぬくと余生を送ってしまったかもしれません。

良い機会を与えていただきました。(川崎市:A.T)



昨年から続けているこのシリーズも5回目となりました。UN Womenの目的・課題に沿ってジェンダー平等や人権、女性のエンパワーメントについて問題提起しながら学び語り合う愉しみな会になっています。今回は数奇な運命を辿ったインドの女性国会議員、プーラン・デヴィ女史を通して、奥深いジェンダー問題と人権問題について考察しました。

彼女は最下層社会に生まれ、11歳で20歳も年上の農民と結婚させられましたが、1979年盗賊団に誘拐され、その首領と恋におち、持ち前の賢さで盗賊団を率いるまでになりました。それまで味わった屈辱、差別の不条理から上層階級への激しい報復や盗賊団との諍いを繰り返す遂に牢獄へ。仮出所となった1996年「カーストと性差別による下層階級、貧困女性を助けたい」と女性の地位向上のためのNGOを立ち上げ活動しました。また「仏陀の前ではすべての人が平等」と説く仏教に共鳴するとヒンドゥ教から改宗、多くの貧困層から支持を受けて国会議員となりました。9億の民が生きるインド社会の象徴的な因習と差別、女性蔑視や権力と勇敢に戦う中で2001年、国会から帰宅したところを武装グループの凶弾によって暗殺されてしまいました。



6月13日(木) 第2回

「クジラの島の少女」に描かれた伝統とジェンダーを教材に

6月13日(木)の昼下り、ニュージーランド生まれの作家ウイテイ・イヒマエラの小説「クジラの島の少女」に描かれた誇り高いマオリの文化と伝統の継承、ジェンダー問題を興味深い視点から描き、出演者も全員がマオリ族というニキ・カーロ監督の同名の映画から学び、皆で話し合った。

クジラに乗って島にやってきたマオリの先祖と同じ名前を付けられた少女、パイケア。双子で生まれた弟は母と一緒に死んでしまった。

族長で祖父のコロは残された孫娘を学校に迎えに行き一緒に自転車に乗って帰るなど、愛情は示しつつも族長として男の子を跡取りにと願っている。父親は芸術家になると村を出てヨーロッパに行ってしまった。祖父は村を再生するために、男の子たちを集めて特訓を始めるが「女の子だから」と参加させてもらえないパイケアは、叔父に頼んで、伝統の棒術や歌を習う。

族長の継承者になるには「魂のテスト」と呼ばれる海に投げ込まれた“クジラの歯の首飾り”を潜って探さなければならない儀式がある。男の子は探せず継承者は決まらない。パイケアは見事にとってくるが、祖母は「いまはまだ早い」と隠してしまう。やがて学校の学芸会でパイケアは主役となり、祖父コロに捧げる歌を歌う。その歌声に呼び寄せられたように多くのクジラが浜に打ち上げられた。

村人はクジラの群れを沖に戻そうと力を振り絞るが及ばない。パイケアはクジラに話しかけ、先導のクジラの背に乗り海中へと向かう。祖母から首飾りを見せられた祖父はすべての事態を納得した。クジラとともに深海へ潜り、危篤状態となった彼女も村人たちに助けられる。やがてマオリの伝統的なカヌーの進水式で船の中央に祖父とパイケアは並んで座った。「皆で力を合わせれば、未来が築ける」と村人たちは碧い海へと漕ぎ出して行く。



松本氏の解説によると、ニュージーランドは女性の権利に関しては世界で一步先んじているが、伝統社会では男性のリーダーシップが求められ、現実には心理的にも愛情の問題でも葛藤がある。クジラの島の少女はダメと言われても引き下らない強さがある。リーダーには前面に出て大声で叫んだり指示を出すのではなく、仲間が力を出せるように環境を整えられる知恵が求められる・・・と。共感！女性の視点からマイノリティの心を見事に表現した作品に爽やかな、希望を失わない感情を大切にしたいと思った。

UN Women東京「役員候補者推薦(自薦・他選)」のお願い

役員推薦委員会委員長: 阿部幸子

2014・2015年度のUN Women東京の活動に向けて、会員の皆様に役員および役員推薦委員の候補者をご推薦いただく時期となりました。是非とも、自薦、他薦の候補者をご推薦いただきたくお願いいたします。

当会は、事業収益を国連組織の一つであるUN Womenへ拠出するため、コンサート、講演会、バザー等の活動を行っています。役員(10～15名)は、会長、副会長、書記、会計、会員、編集、事業の各担当を分担しながらも、全員で事業企画・運営に当たり、江東区深川の事務所(地下鉄東西線・大江戸線の門前仲町駅下車3分)で月1回程度の会合を持ち、活動しています。

ご一緒に活動していただける方は、是非とも自薦でお申し出いただきますことを願っています。また、会員で適任と思われる方をご存知の方は、役員候補者をご推薦くださいますようお願いいたします。

なお、詳細は同封用紙をご参照の上、候補者氏名、担当希望を明記して、9月1日(日)までにメールまたはFAXにてUN Women東京役員推薦委員会宛にご連絡ください。

TEL&FAX: 03-5809-8587 E-mail: unwomentokyo@unwomentokyo.org

=今後の予定 ご案内=

●第22回 チャリティコンサート

『ポリヌ・ヴィアルドのうた』～その多彩な魅力の源泉を求めて～

出演者：枝並雅子（ソプラノ）

：田中伊知子（クラリネット）

：吉岡優子（ピアノ）

企画協力：小林 緑（国立音楽大学名誉教授）

2013年11月26日（火） 14:30開演（開場：14:00）

（都）東京江戸博物館ホール

4,000円（全席自由席）

主催：UN Women東京

お申込み：Tel&Fax 03-5809-8587 <http://unwomentokyo.org>



●講演会・学習会シリーズ第3回 「映画に学ぶ世界の女性たちは・・・いま」

* 松本侑壬子先生を囲み、女性の権利や人権、地位の一步前進のための学習と懇談会に多くの方のご参加をお待ちしています。



10月10日（木） 13:30～ 津田塾大学同窓会会議室

★参加費 500円

●2013年12月初旬予定

UN Women日本国内委員会・内閣府共催 シンポジウム

「女性はもっと活躍できる! ～WEPsが変える仕事の未来」

プログラム：基調講演「WEPsが拓く新しい企業の形と私たちの働き方
～世界の成功事例に学ぶ」

パネルディスカッション「企業と仕事の未来
～WEPsが日本企業を変える!」



UN Women日本国内委員会 Tel&Fax:045-869-6787

unwomennihon@adagio.ocn.ne.jp

☆ご入会・ご寄付をいただき有難うございました。

2013年3月1日～2013年6月末日（敬称略）

新規会員：

山田美砂子 青木壽子 青木幸子
青木洋子 田中喜代子 坂口ふみ
川橋幸子 岩尾恭子 河合香苗
河合由貴 広田 漣 宮原千佳子
谷村悦子 小野 操 白川恒則
木村好延 平井幹殷 羽野幸子
渡辺晶子 辰巳京子

寄付者：

松比良節子 加藤聖子 小倉礼子 有馬真喜子
長田満江 加藤恭子 高野博子 山野俊治
渋谷弘子 武内あや子 尾高富佐子 白根和味
山田美也子 泉三和子 碓谷真理 加藤智子
兼目和子 長濱節子 太田恵子 鳥居乃夫子
小西厚子 廣田貞子 中山正子 五十嵐康子
辰巳京子 匿名希望2名

* 前号：訂正してお詫びいたします。

根岸直子→根岸眞子



編集後記

皆様のお蔭で順調なスタートを切って上半期の活動を終わることができました。第8号にも会員の方からの記事をいただいて、今までと異なる視点や角度から編集することができ、厚く御礼申し上げます。

さて、UN Women事務局長M・パチェレさんの突然の辞任は非常に残念に思いました。噂によれば11月のチリ大統領選挙に出馬されるようです。NYの本部に一日も早く新事務局長が誕生することを望みながら、実りある活動を続けたいと思います。(S)

UN Women 日本国内委員会東京委員会

UN Women東京 *News Letter* Vol.8

発行人：東京委員会会長 鷲見 八重子

発行日：2013年 7月25日

〒135-0033 東京都江東区深川2-6-10

上原ビル 1F

Tel/Fax 03-5809-8587

<http://unwomentokyo.org>

E-mail: unwomentokyo@unwomentokyo.org